

主催



日中学生交流連盟



JAPAN FOUNDATION

国際交流基金
日中交流センター



日中学生交流連盟



JAPAN FOUNDATION

国際交流基金
日中交流センター

RELEAD ASIA 2016

-アジア人材育成プログラム-

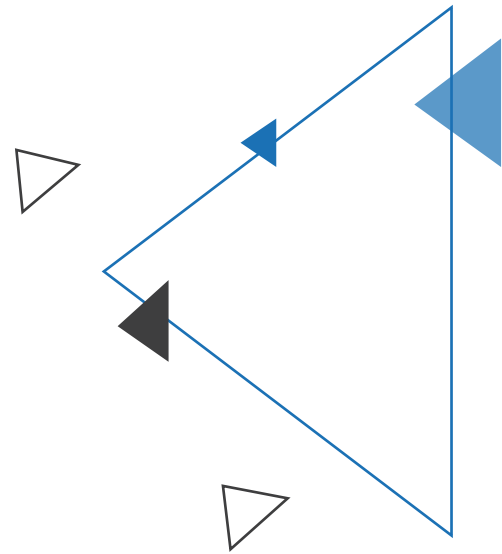
協力

株式会社エヌ・エヌ・エー（共同通信グループ）、株式会社資生堂、株式会社ジーユー（ファーストリテイリンググループ）、株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル、株式会社東京証券取引所、株式会社日本経済新聞社、株式会社文明堂東京、株式会社ホトロン、株式会社三菱東京UFJ銀行、日本電気株式会社、藤田観光株式会社、丸紅株式会社、横河電機株式会社

この報告書の著作権は日中学生交流連盟、及び国際交流基金日中交流センターに帰属します。
内容の全部又は一部を複製し利用することを禁じます。

2017年3月発行

目次 CATALOG



1、事業概要	03
2、活動の内容	
2-1、春季プログラム	04
2-2、夏季プログラム	05
2-3、企業訪問の様子	07
2-4、企業アンケート結果	12
2-5、講演の様子	13
3、活動を終えて	
3-1、参加者の声（春）	15
3-2、参加者の声（夏）	18
3-3、参加者アンケート結果	24
4、協力企業一覧	25
5、主催団体紹介	27
6、学生実行委員紹介	29
7、ご協力のお願い	30

日中学生交流連盟
リードアジア実行委員会実行委員長
一橋大学3年



曾 毅春 (そう きしゅん)

2012年の尖閣諸島/釣魚群島問題をきっかけに発足した「リードアジア」プログラムは今年いよいよ4年目に入りました。「アジアをリードする」というやや大袈裟な表現が名前に含まれていますが、リードアジアの理念は実にシンプルです。日中両国の国民がお互いに不信感と誤解を抱えている現状の中で、我々のプログラムでの交流を通して学生たちにお互いの国の真の姿を知る機会を提供し、そしてそのような誤解と不信感を少しでも無くすことです。

そのような初心に基づいて4年目を迎えた今年、「プログラムとして求めるべき質」及び「持続可能なプログラムの長期的成長」を巡って真剣に議論しました。そこで、リードアジアのエッセンスになる夏季プログラムを例年通りに実施するのと同時に、春季プログラムの実施期間を短縮するなど、昨年度の事業規模拡大から若干方向修正をすることを決めました。そして今年の活動では主にプログラムの質、及び社会的知名度の向上を図りました。

プログラムの時期が企業の夏季インターンシップ及び夏季休暇と重複するなど厳しい状況の中で、今年も幸い訪問企業13社のご協力をいただくことができ、プログラムを無事に開催することができました。そして春夏合計63名の参加学生が現在でも活発に世界各地で交流し合い、その一部がプログラムの影響で相手国への留学を決意したように、最初に設定した交流の目標が十分に達成できたことを実感しました。

本事業の学生参加者たちが、プログラムを通して生まれた絆を今後とも発展させていくこと、そしてさまざまな分野で日中両国の相互理解に寄与していくことを心から願っております。

末筆ながら、プログラム開催にあたり多大なるご尽力をくださった国際交流基金日中交流センター、協力企業、その他の協力法人、そして個人の皆様に衷心より御礼申し上げます。日中交流促進のため、これからもより一層お役に立てるよう努めてまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

国際交流基金 日中交流センター事務局長



堀 俊雄 (ほり としお)

国際交流基金日中交流センターは日中の青少年交流の活動運営・支援を行っています。日中学生交流連盟との共催である「リードアジア」プログラムへの支援もそのひとつです。

2013年に開始した本事業は今年で4年目に入りました。「リードアジア」に集った日中の大学生たちも、延べ200名近くを数えます。

今年の夏季プログラムでは、参加人数は43名(日本人学生23名、中国本土や米国から来日した中国人学生13名、日本で留学中の中国人学生7名)にのびりました。また、4年目にしてはじめて中国人学生曾毅春君が実行委員長に就任しました。曾毅春君は国際交流基金日中交流センターが主催する別のプログラムである中国高校生長期招へい事業の第5期の卒業生でもあります。さらには、中国各地での「ふれあいの場」の運営に携わる学生も参加してくれ、交流の輪が格段に広がった感があります。

本事業に参加した学生達は、8泊9日の合宿形式の日程で代々木のオリンピックセンターで寝食を共にしながら、本事業実現に至るまでのさまざまな困難を克服し、企業訪問やディスカッション、勉強会等を実践してきました。

一方で、今回は13社の企業訪問が実現しました。企業の皆様、団体の皆様からは本事業への並々ならぬご支援をいただきました。まことにありがたくここに熱く感謝申し上げます。企業訪問は学生たちにとって大きな経験と励みになり、新たな視野を開くことが出来たものと確信しております。

参加した学生が、日中両国をはじめ、本事業タイトルのとおり「アジアをリード」する人材将来に、ひいては世界で活躍する人材になってほしいと願うとともに、これからも日中両国の多くの賛同を得て、本事業の活動の輪が広がっていくことを願っています。

1、事業概要

RLEAD ASIA アジア人材育成プログラム

【春季プログラム】

実施日程：2016年3月21日～22日
(1泊2日)
開催地：東京
主催：日中学生交流連盟
後援：国際交流基金日中交流センター
参加人数：20名
日本人学生：9名
在日中国人留学生：11名



【夏季プログラム】

実施日程：2016年8月20日～28日
(8泊9日)
開催地：東京
共催：日中学生交流連盟
国際交流基金日中交流センター
参加人数：43名
日本人学生：23名
在日中国人留学生：7名
その他の中国籍学生：13名



【訪問企業】(五十音順)

株式会社エヌ・エヌ・エー(共同通信グループ)、株式会社資生堂、株式会社ジーユー(ファーストリテイリンググループ)、株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル、株式会社東京証券取引所、株式会社日本経済新聞社、株式会社文明堂東京、株式会社ホトロン、株式会社三菱東京UFJ銀行、日本電気株式会社、藤田観光株式会社、丸紅株式会社、横河電機株式会社

【参加者大学一覧】日本側23校、中国側11校、合計34校

日本側(日本人学生、在日中国人留学生)

【関東】東京大学、一橋大学、慶應義塾大学、早稲田大学、上智大学、東京外国語大学、青山学院大学、法政大学、東京理科大学、津田塾大学、創価大学、白百合女子大学、神奈川大学、獨協大学、白鷗大学、桜美林大学、筑波大学【関東以外】北海道大学、岩手県立大学、同志社大学、関西学院大学、九州工業大学、琉球大学

中国側(その他の中国籍学生)

延辺大学、吉林大学、国際関係学院、黒竜江大学、重慶師範大学、中国伝媒大学、中山大學、天津外国語大学、電子科技大學、北京外国語大学、Trinity College(アメリカ合衆国)

【コンセプト】日中交流未経験者層へのアプローチ

本事業は、日中交流になじみのない日本人学生をターゲットとし、「ビジネス」に対する好奇心をきっかけに日中交流に興味を持ってもらうことを最大の目的としています。そのため、【日中交流】と【企業訪問】を組み合わせた独自のプログラムを考案し、実施しております。このプログラムは、日本に興味を持つ中国人学生に日本の企業文化を肌で感じてもらい、共同生活を通して日中の相互理解を深めることにも寄与しています。

また、今年もプログラム構成の模索に継続して取り組み、昨年実施した2泊3日の春季プログラムと1dayプログラムの間に当たる1泊2日の交流企画を試みました。

2、活動の内容

2-1、春季プログラムダイジェスト

【1日目・3月20日・集合、料理大会】

お昼前に集合し、参加者同士でお昼ご飯を食べながら自己紹介を行ったため、和やかな雰囲気でもプログラムが始まりました。午後より、全体でのアイスブレイクと翌日の企業訪問に備えたディスカッション演習を行いました。それらが終わると、いよいよ文化交流です。夕飯として、班ごとに相談してレシピを決め、調理をする「料理大会」を実施しました。日中を代表とした定番家庭料理や、各々が得意とする創作料理などがたくさんテーブルに並びました。料理が得意な人も苦手な人も協力し合って作った料理の味と達成感は、きっと忘れられないものとなるでしょう。



【2日目・3月21日・企業訪問、発表会】

待ちに待った企業訪問の日です。全員で都内の某大手企業に伺いました。前半はショールームで会社の歴史を学んだり、最新技術を体験したりして楽しみました。後半は企業より与えられたテーマでディスカッションに取り組みました。持っている知識と前半のインプットを活かして、全力で課題に挑む姿が見られました。グループでまとめた案は発表して皆で共有し、社員様からフィードバックをいただいて、充実した企業訪問となりました。お互いの意見をぶつけ合ったことで、メンバーの距離も縮まったことでしょう。打ち上げでは「また集まって話したいね」と連絡先を交換し合う参加者の姿がありました。2日間という短いプログラムでしたが、日中の垣根を超えた交流を実感することができました。

2-2、夏季プログラムダイジェスト

1日目・8月20日・集合、来日

中国本土学生は北京での事前マナー研修を終えて15時ごろ無事に日本へ到着し、一足先にオリンピックセンターに集合しました。少し遅れて、雨の中大きなスーツケースを引きながら、日本側の参加学生も集合しました。不安と期待が入り混じる表情の学生たち。まずは食堂で一緒に初めての食事をとり、その後、自己紹介とアイスブレイクを行いました。自己紹介ではスタッフ9名も含めた総勢52名が、それぞれ自分の趣味や特技をアピールして盛り上がりました。またアイスブレイクとして行ったマシュマロゲームを通して参加学生も徐々に打ち解けていき、とても良い雰囲気でのプログラムのスタートを切ることができました。



2日目・8月21日・事前研修、博物館見学、料理大会

午前中は事前研修として、元野村総研中国副総経理・現株式会社Grooの最高経営責任者の寺村英雄様より「日中ビジネス」について、元丸紅中国総代表の眞鍋忠夫様より「世界に通用する人材」について、講演していただきました。沢山メモを取り、積極的に質問する学生の姿が印象的でした。



午後は文化交流プログラムです。江戸東京博物館にて、与えられたお題に答えてグループごとに点数を競うミッションゲームを行いました。東京の歴史や文化を学びながら交流を深めることが目的でしたが、自由に写真をとって楽しむ姿を見ると、交流促進という目標はあっという間に達成できたようです。夕食には、グループごとにメニュー決めから買い出し、調理まで行う料理大会を開催しました。限られた時間と予算の中で料理を完成させるには、分担と協力が不可欠となります。まだ会って日も浅いですが、驚くほどスムーズに沢山の料理が完成しました。「食」を共有することで、皆の距離がグッと縮まったのではないのでしょうか。

3日目・8月22日・企業訪問、マスコットグランプリ

いよいよ企業訪問が始まりました。初日は予想外にも台風が直撃し移動に支障が出ましたが、企業訪問を無事に終えることが出来ました。夜は文化交流企画として実行委員主催のマスコットグランプリを開催しました。リードアジアのコンセプトを再認識し、それを自由に表現してもらうことを目的として、リードアジアのマスコットキャラクターを考えてもらう初めての試みです。やはり日中友好の象徴である「パンダ」をモチーフにした班が多かったのですが、見た目の可愛らしさが好評だったのか、グローバル人材の「たまご」をイメージしたキャラクターがグランプリに選ばれました。



4日目・8月23日・企業訪問

企業訪問2日目は、午前中は3社に分かれ午後は2社に分かれて、合計5社を訪問しました。移動がとてもハードな1日となりました（各企業の訪問の様子は、p7-p11をご参照ください）。



5日目・8月24日・企業訪問、日中外交勉強会

企業訪問3日目は、朝の6時台に集合して出発するほどスケジュールの詰まった1日でした。各社とも独自の企業理念と事業責任をしっかりとった企業のため面白いお話を聞くことができ、非常に勉強になりました。訪問中に行われるグループワーク・ディスカッションでは、限られた時間の中で斬新なアイデアが求められます。初めは発言が少なかった学生も回数を重ねるごとに意見を言えるようになってきました。夜は、外務省大臣官房報道・広報・文化交流担当参事官 副報道官の大鷹正人様が貴重な講演をしてくださりました（詳細はp14を参照）。学生たちの質問が止まらず、大鷹様もその積極性に驚くほどで、非常に盛り上がりました。



6日目・8月25日・企業訪問、歴史勉強会

企業訪問最終日も朝から晩まで濃い1日でした。昼間は2社に全員で訪問しました。とても短い時間で、難しいテーマのグループディスカッションでしたが、回数を重ねてきたこともあり、参加学生の成長が感じられるしっかりとした発表を聞くことが出来ました。

夜はオリンピックセンターで歴史勉強会を実施しました。日中戦争についての日本と中国の教科書の記述を比較し、なぜそのような差が生じてしまうのか、日中の学生が互いに意見を交わしました。

その後は、プログラムのまとめとして行う最終発表会のテーマの発表へ。今年のテーマは歴史勉強会の学びを踏まえて、『偏見や先入観が生まれやすい環境の中で、これからの良好な日中関係のために我々ができることは何か』と設定しました。プログラムでの実際の交流を通して得た気づきや感じた想いを共有し、今後活かしてもらいたいという思いが込められています。疲れも溜まってきている中、夜遅くまで語り合う学生たちの姿が印象的でした。

7日目・8月26日・最終発表会、懇親会

最終発表会の日がやってきました。午前中はオリンピックセンターで選考会を行い、投票によって選ばれた上位3つの班が東京大学の本会場で成果発表を行います。各班は工夫した個性的な切り口から、6日間の学びを表現してくれました。今後の社会を担っていく日中の学生たちが、本気で日中関係について考えた時間は決して無駄にはならないでしょう。

発表会と懇親会には、この企画にご支援いただいている基金の皆様、協力していただいた企業・団体の皆様、OBOGの皆様をご招待しました。このような社会人の方々との交流出来ることもリードアジアの魅力の1つです。

8日目・8月27日・観光、打ち上げ

この日は7つのグループに分かれて、自由に東京観光を楽しみました。浅草・スカイツリー方面で歴史を感じたり、原宿表参道地域で現代カルチャーに触れたり、お台場ではしゃいだりと、各班自由時間を堪能したことでしょう。

夕方は渋谷のカフェバーに皆で集合し、打ち上げを行いました。実行委員がこっそり用意していた振り返りムービーを視聴しながら思い出を語ったり、プログラム開始時の第一印象を暴露し合ったりと、話題は尽きません。この日は参加学生1名の誕生日でもあり、サプライズでケーキプレートと共にお祝いしました。また、最後に参加学生側から実行委員へのメッセージカードのプレゼントもあり、感動のフィナーレにふさわしい時間となりました。

9日目・8月28日・帰国、解散

早朝5時30分ごろには中国本土学生が出発してしまうということで、皆で早起きしてお見送りしました。「絶対にまた会おう」「今度は中国に遊びに行くからね」と再会を誓ってお別れしました。別れを惜しんでバスが見えなくなるまで手を振り続け、思わず涙を流す学生もいました。本土学生がいなくなり寂しくなりましたが、残ったメンバーで閉会式を行い、リードアジア2016夏季プログラムが正式に終了しました。



2-3、企業訪問の様子

1：横河電機株式会社

～世界をリードする電機メーカー～

YOKOGAWA

8月22日・AM

企業訪問1日目、暴風雨の中、横河電機へと向かいました。横河電機が扱う計測・制御機器に、あまり馴染みの無い学生もいたようですが、社員様からの事業や製品に関するお話を聞き、ショールーム見学で本物の機器を見て回ると、すっかり興味津々に。その後のレクチャーでは、人材育成やCSR（企業の社会的責任）といった幅広い企業活動についても学びました。

また「グローバル企業・グローバル人材とは何か」というテーマで、学生たちは企業訪問において「初めて」グループディスカッションを経験しました。「グローバル」というリードアジアとも共通するテーマについて、日中の学生でともに考え、意見をまとめ、共有するという経験は、次に続く企業訪問とグループワークのいわば試金石となりました。



2：日本電気株式会社（NEC）

～新ビジネスモデルを提案～

Orchestrating a brighter world

NEC

8月22日・PM

22日の午後は、台風9号の影響で電車が運転停止に。移動に予定より時間がかかり学生たちの顔にも少し疲れが見えていましたが、日本電気（NEC）の3名の社員様による軽妙なトークで会場は大いに盛り上がりました。NECは、1972年の日中国交回復の中継に携わるなど、日中を繋ぐ大きな役割を果たしていたことが窺い知れました。NECの訪問では「ビジネスモデルキャンパス」など、新規ビジネスを作る際のスキームを学び、大変実践的な内容という印象を持ちました。グループワークでは、NECの技術を生かしたアイデアコンテストを行いました。1つ1つのアイデアに対して改善点や実現性の有無など「手加減のない」フィードバックを社員の方々から頂け、学生たちにとって充実した訪問になりました。



NEC企業訪問様子

3：藤田観光株式会社

～高級旅館での初体験～



FUJITA KANKO

8月22日・PM

到着して早速案内されたのは、レストラン「錦水」。高級感溢れる場所で、贅沢に、藤田観光の取り組みについてのお話を伺いました。あいにくの天気のため、庭園の見学は出来ませんでしたが、ホテルの客室やチャペルを見学し、学生たちの気分もすっかり高まりました。その後は、学生自身がホテル椿山荘東京で働くホテルマンという設定のもと、「日本の魅力を海外の方に伝えるには」というテーマで、日中の学生が4グループに分かれて、グループディスカッションをしました。日本人・中国人それぞれの視点で「日本の魅力」を出し合い、お互いの認識を共有し合う過程で、両国の学生は様々な気づきを得ました。最後には「錦水」の掛け軸の前で記念写真を撮り、名残惜しくもホテルを後にしました。



4：株式会社東京証券取引所

～証券市場を知る～

8月23日・AM

他のグループより遅めの朝を迎えた一行は、到着後、まず東証の歴史についてのビデオを鑑賞し、その後東証Arrowsを見学しました。見学の終盤には、マーケットセンターの電光掲示板の前で、「リードアジア」の文字と一緒に記念撮影をしました。その後、「証券市場をめぐる最近の状況」というやや難易度の高いテーマについての講義を受けました。

参加学生の中には経済学部の学生もいたものの、金融や証券についてあまり馴染みのない学生も多く、質問が飛び交いました。講義終了後、学生の間から「金融についての知識を深めたい!」という声が多く聞かれ、自主勉強会を開こうという提案もありました。「勉強会」という名目で、日中の学生が交流する機会が増えることをスタッフとして内心嬉しく思いました。

5：株式会社JTBC グローバルマーケティング&トラベル

～これからの訪日観光戦略～

8月23日・AM

最初に会社の説明を受け、続いて社内見学としてオフィスを案内していただきました。実際の職場を目にすることができ、仕事をリアルに感じられました。この日のメインはグループディスカッションで、「中国からの訪日修学旅行生を増やすには？」という議題について各班が話し合いました。班分けにおいて日本人班と中国人班に分けたことで見て取れたのは、議論の進め方ひとつとっても全く異なるということです。目的地に東京や京都といった日本文化の集積した地域をあげるグループが多く見られました。また、四季や平和などに価値を見出し、広島を選んだグループもありました。旅行業界という、お客様に直接価値を提供するサービスに対し、日中の学生目線での率直な意見を発表することができました。



6：株式会社文明堂東京

～創業116年の老舗文化に触れる～

8月23日・AM

朝7時、朝食の時間も惜しんで早朝の電車に乗り込み、目的地の文明堂東村山工場へ。到着後、まずは工場の方からざっくりと工場の内部構造についてご説明いただき、早速見学の白衣に着替えました。「全身武装」しての工場見学は皆初めてで、せっせと自撮りに励んでいました。徹底的な消毒の後、エアシャワーの門を潜って工場内部へ。全てが新鮮に見える工場内の設備に目を光らせ、お話を聞いてうなずく参加者たちの姿が印象的でした。工場を一回り案内して頂いた後は、社員から文明堂の歴史、沿革そして近年の新たな取り組みについてお話を頂きました。「人々に笑顔を届ける」ために、安全安心なお菓子を提供する営み、こだわりを究極に追求する志は特に学生の心に響いたと思います。



7：株式会社日本経済新聞社

～中国語で発信する日本メディア～

8月23日・PM

2015年のThe Financial Timesの買収や、日系大手メディア初の「日経中文網」、日経電子版など、近年積極的にグローバル化・デジタル化を推進している日本経済新聞社。日本メディアの中国に対する偏向報道問題などもあり、参加学生にとって今回のプログラムで、最も注目度が高かった企業の一つではないでしょうか。今回は日経中文網発行人である後藤様から、記者としてのやりがいや、中国におけるメディア事情など様々なお話を伺うことができました。グループワークは、初めて4つのテーマ（日経のグローバル化についての提言・日経中文網の知名度向上・新聞離れの防止・もし私が新聞記者だったら）を自由に選択する方式を採りました。学生からは新聞を読まない理由など、忌憚のない意見が出ました。



8：株式会社エヌ・エヌ・イー（共同通信グループ）

～アジアの「今」を届ける日系メディア～

8月23日・PM

アジア各地の厳選されたビジネス情報を配信しているエヌ・エヌ・イー（NNA）へ訪問しました。講演の前半では、日本ではあまり報道されないローカルなニュースまで扱うビジネスモデルについて学びました。後半は、代表取締役社長の岩瀬様が登壇され、NNAの歴史や独自の視点について熱く語っていただきました。その後、NNAのサービスを踏まえた「SNSを使った新市場開拓」というテーマでグループワークに取り組みました。大きなテーマでしたが、どの班も時間内にアイデアを絞り出して見事でした。社員様からのフィードバックでは「どこで利益を生み出すのか、採算は取れるのか」というご指摘を多くいただき、学生たちもビジネスの難しさを実感したことでしょ。



9：株式会社ジーユー

（ファーストリテイリンググループ）

～GUを中国で成功させるには～

8月24日・AM

冒頭にGUの企業紹介をしていただいた後に、第一線でGUの中国展開を担当している社員の方にGUの中国におけるECビジネスの現状について詳しく説明して頂きました。続くグループワークの時間には、参加学生たちが「中国でGUの認知度を飛躍的に高めるには？」というテーマを巡ってグループワークごとに白熱した議論を展開し、グループごとに案を作成し、発表しました。プログラムの締めくくりとして、GUの柚木社長に講評をしていただき、参加学生たちの提案は高い評価を受けました。自分たちの提案を社長から直接評価して頂くという経験は、両国の学生にとって非常に刺激的な経験となったことでしょ。



10：株式会社ホトロン

～センサーから感じる日本の技術～

8月24日・PM

町田市にある株式会社本田電子技研に到着するやいなや、早速ホトロンの製品を見せていただきました。ホトロンの代名詞であるセンサーが介護用のマットにも活用されていることを知り、生活の隅々にまでホトロンの製品が浸透していると実感できました。製品紹介の後は、ホトロンの事業や海外進出、またセンサーの仕組みについて社員様からご説明していただきました。学生たちはセンサーの動く仕組みについて普段から意識することが少なかつたせいか、皆すっかり興味津々になり、前のめりでお話を伺っていたようです。レクチャー終了後の懇親会では、日本人や中国人に関係なく、参加者の皆様と社員様が和気あいあいとした雰囲気。親密な社内の雰囲気が伝わってくる企業訪問となりました。





11 : 株式会社資生堂 **SHISEIDO**

～「美」とは何か～

8月24日・PM

日本を代表する化粧品メーカーである資生堂へ訪問しました。昼食には、銀座の資生堂パーラーにて、伝統メニューであるサンドウィッチとクリームソーダを提供していただき、学生たちも大興奮。ランチを終えて、最初に140年を超える資生堂の歴史と発展についてビデオで学び、その後、資生堂の理念について詳しくお話を伺いました。お客様を満足させる高品質な商品の提供に加えて、「人が美しく生きるため」に社会に貢献する資生堂の様々な活動を紹介していただき、消費者の立場では気づかない新たな発見もありました。「美しい生活文化を創造する」という会社のミッションを題材に、グループワークでは各々が「美しさ」について真剣に考え、それを資生堂がどのように提供できるのかを皆で話し合いました。沢山の意見が飛び交い、盛り上がりました。



12 : 丸紅株式会社 **Marubeni**

～総合商社からみる中国経済～

8月25日・AM

竹橋の本社ロビーに入るや目に入ったものは、電子掲示板に映し出された「歓迎リードアジア2016」のメッセージ。粋な計らいに、期待感が膨らみます。全員で記念撮影を行いました。市場業務部中国チーム長の徳永様のご挨拶から始まり、続いて経済研究所の李様から総合商社・丸紅についてのご説明がありました。世界にも類を見ない「総合商社」という形態に、特に中国側の学生から多くの質問が出ましたが、1つ1つ中国チームの稲積様が丁寧に答えられました。ディスカッションテーマは「新常态、一帯一路でのビジネスチャンスに何が出来るか」というタイムリーなもの。参加学生は、今回一番難しいテーマに一同苦戦していましたが、商社ビジネスの奥深さ、壮大さを、身をもって学べたのではないのでしょうか。



13 : 株式会社三菱東京UFJ銀行

～邦銀の中国戦略を学ぶ～

8月25日・PM

日本のメガバンクの1つである三菱東京UFJ銀行を訪問しました。訪問の最初には、学生みんなまでメガバンクの業務及び三菱東京UFJ銀行の中国での動向について学びました。続いて学生たちは「三菱東京UFJ銀行の中国での知名度向上」というテーマでグループディスカッションに取り組みました。実際、日本人にとっては知名度抜群の、三菱東京UFJ銀行のことを知らない中国本土の学生も多かったようで、ホットなテーマと言えたのではないのでしょうか。そのせいか短い間でしたが、質の高い案がたくさん提案されました。訪問の終盤には、丸の内にある本店も見学することができ、学生たちにとって非常に有意義な訪問となったことでしょう。

2-4、企業アンケート結果

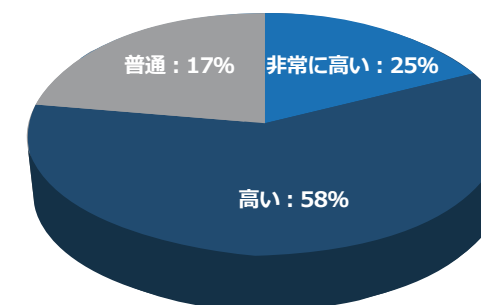
今回受け入れを決定した理由 (複数選択可)

参加学生のレベル

日中関係の発展に意義のある活動だと感じたため。	10社 (83.3%)	高い	9社
信頼できる方からの紹介だったため。	10社 (83.3%)	やや高い	3社
学生の意見、アイデアを参考にしたかったため。	6社 (50%)	普通	0社
広報活動の一環として期待できたため。	5社 (41.7%)	やや低い	0社
採用活動に有益だと考えたため。	2社 (16.7%)	低い	0社

受け入れを終えて、満足度

5点(非常に高い)	3社
4点(高い)	7社
3点(普通)	2社
2点(やや低い)	0社
1点(低い)	0社
0点(非常に低い)	0社



受け入れを終えて

ネット世代の若い人たちの新聞というものに対する考えを生で聞かせてもらったことは、非常に新鮮で、今後の企業戦略にとって有益だったと思います。

日中両国学生の皆さんがvoluntaryに参加されるプログラムであり、皆さんの交流意識、事前学習・知識レベル何れも高水準で好感を持ってました。

学生の方々が、複数の企業訪問となるにもかかわらず、真剣に課題に向き合い、おそらく寝る間も惜しんで課題に取り組んだ形跡がいたるところに見られた。見ず知らずの仲間との交流だけでなく若い時に濃密な時間を持ったことはこの先きっと有意義な経験になると思います。

レクチャーを熱心に聞く姿、また的を射た質問が多く出されたことが非常に印象的でした。

2-5、講演の様子

①事前研修の講演 ～世界に通用する人材とは～

8月21日午前の講演として、元丸紅中国総代表の眞鍋忠夫様に登壇して頂きました。冒頭の「世界に通用する人材とは」についての話では：留学経験から何を学んだか、どのようなコミュニティで日常生活を送るのかについてお話を頂きました。「グローバル化」を唱える時代において、どのような人材を目指せば良いのかを、語学力や他文化理解だけでなく広い視野やタフさなどの一般的によく言われる能力以外の素質にも話は及びました。「和集合と積集合」という例えを使いながら、同じ境遇にはない外部の人と接点を持つことの重要性についてのお話は特に印象的でした。

また、企業訪問する際のアドバイスとして、訪問企業の全体の雰囲気や長期戦略などに着目して、独自でその企業について分析した方がいいと教えてくださいました。自分たち学生が社会人になった時にその会社にいる自分を、より一層想像しやすくなったように思います。

学生は真剣に耳を傾け、経験に裏打ちされた説得力のあるお話を聞き入っていました。自分には何ができるかをそれぞれに考え始めるきっかけになりました。翌日から企業訪問がスタートするので、高いモチベーションで挑めそうです。



【講演者プロフィール】

眞鍋 忠夫 (まなべ ただお)

1948年生まれ。東京外国語大学卒、丸紅株式会社入社。エネルギー化学プラント第二部長、丸紅化学プラント社長、丸紅香港会社社長、丸紅中国総代表、カフコジャパン投資(株)社長、サハリン石油ガス開発(株)専務取締役歴任。退職後、大阪府商工労働部・スーパーバイザー、JETRO・中堅・中小企業新興国進出支援専門家、現在も数社の中小企業の海外進出アドバイザーを務める。そして国際社会貢献センター会員として、高校等で講演活動も行う。

②事前研修の講演 ～日中ビジネスの違い～

8月21日午前2つ目の講演は、株式会社Grooの最高経営責任者である寺村英雄様より、日中ビジネスについて講演して頂きました。寺村様は中国在住歴が長く、野村総合研究所の中国法人副総経理としても務めていた中国のビジネスに詳しい方です。現在日本で中国向けのビジネス分野で起業しておられる寺村様は、今回の講演を通してリードアジアの参加者に主に2つのメッセージを届けてくださいました。

まず、中国と日本は地理的に近い両国ですが、ビジネスをする際の価値観が違うことを教えてくださいました。お話によると、中国の経営者は長期的な時間軸でビジネスの成長による利益の最大化を重視しているのに対して、日本の経営者は損益計算書による、短期的な利益を重視する傾向があるようです。そのような一般的な印象と若干異なる分析に多くの参加学生が驚いたでしょう。

続いて現在の日中ビジネスのビジネスモデルと、それらのビジネスを成功させるポイントも教えてくださいました。短期的な利益確保と資産形成が相反することを指摘し、ゼロサムよりプラスサムの思考法の重要性を強調してくださいました。日中ビジネスの源泉は求心力(Engage)であり、そのようなビジネスで成功するには短期的な利益より、より長期的な、広大なビジョンが必要であることもご指摘頂きました。

1時間という短い時間でしたが、大変密度の濃い講演でした。日中ビジネスがこれからもより発展していく時代の流れの中で、中国現地での豊富な経験のある寺村様がお話されるからこそ説得力があり、心に響いたのだと思います。



【講演者プロフィール】

寺村 英雄 (てらむら ひでお)

1975年生まれ、早稲田大学卒。野村総合研究所にてキャリアをスタート。中国法人副総経理に就任し、3年目で現地事業を黒字化することを達成。帰国後はアーサー・D・リトルを経て、日本料理店「浅草おと」を開業。そしてコンサルティング業務を請け負うGroo Inc.設立し、現在は同社の最高経営責任者を務める。

③夜のプログラムの講演 ～外交官から見る日中交流～

夜の日中学習プログラムの一環として、8月25日の企業訪問後は外務省大臣官房報道・広報・文化交流担当参事官 副報道官の大鷹様にご講演頂きました。大鷹様は日米学生会議という、会議形式の日中交流活動のご支援にも尽力されている方で、その国内外での文化交流や海外での豊富な経験から、現在の世界情勢や今後の日中交流の動向などについてお話をしてくださいました。

弊プログラムのような学生が運営する国際交流は価値があるとのことで、日中に拘らず草の根の活動を広げて行くことは十分に意義のあることだ、とおっしゃってください、実行委員としても嬉しい気持ちになりました。

またご講演後の質疑応答の時間に、参加者が沢山の質問を投げかけた為、講演会はますますの盛り上がりを見せました。その質問は国の安全保障やグローバル化から始まり、哲学的な思想についてまで幅広かったです。学生の言葉一つ一つに丁寧に耳を傾けてくださる大鷹様に対し、参加者はみな真剣かつ夢中になっていました。企業訪問最終日前夜のタイミングで、再度気合いの入る充実した内容でした。最後に記念撮影をし、無事講演会は終了しました。



【講演者プロフィール】

大鷹 正人 (おおたか まさと)

1961年生まれ。東京大学卒。外務省入省。外務省では、経済連携課長、南西アジア課長、在タイ大使館経済公使、在米大使館広報・文化担当公使を経て、現職の大臣官房報道・広報・文化交流担当参事官 副報道官となり、報道・広報・文化交流に従事する。

3、活動を終えて

3-1、参加者の声（春季プログラム）



李 伊頤

早稲田大学商学部 1年

企業の見学を通して日本企業についてより知るようになった一方、ディスカッションで自分の不足も認識しました。短い2日間ですが、意識の高い仲間との貴重な出会いが出来て本当に感謝しています。リードアジアという繋がりを通して、皆さんと再び会えることを期待しています。



孫 燁

東京大学経済学部 3年

日中関係に興味を持つ日本人学生と接触することもできて、得られたものが多くありました。先入観を取り除いて話し合えたことで、日中交流活動の魅力を変えて感じました。アイスブレイクと企業訪問時のディスカッションの議題いづれも面白くて、日常生活の中で自分も時々考えるものでした。2日間は短いのですが、得られたものも多かったと思います。



池田 悠輔

東京外国語大学言語文化学部 4年

あっという間にプログラムが終わってしまいました。振り返ってみると笑いの絶えない2日間でした。初めは少し緊張していたのですが、お昼ごはんと一緒に食べたりゲームをしたりしていく中で徐々に打ち解けることができました。2日目の企業訪問で、中国学生も日本学生も一緒になって熱く議論しながらなんとか発表することができた経験は今後も生きてくると思います。この出会いをこれからも大切にしていきたいです。



江 洋

早稲田大学国際コミュニケーション研究科 M1

中国に興味のある日本人の学生たちと一緒に交流することは、自分のこれからの留学生活にも大変役立つと思います。さらに、企業見学の時、両国の学生が共に知恵を絞ってアイデアを生み出すのも参加者にとっていい学び合いになったと思います。これからはより積極的に日中交流の活動に参加し、些細な力でも、日中交流に貢献していきたいと思っています。



祝 暁明

東京大学教養学部 2年

忙しいスケジュールでしたが、とても充実して楽しかったです。特にローテーションでのグループ交代は良かったと思います。そのお陰でみんなと話すこともできて嬉しかったです。何より料理教室はとても良いふれあいの場だと思いました。そして企業見学も面白かったです。



王 夢婷

東京大学経済学研究科 M1

たくさんの日中学生と話すことができ本当に良かったと思います。生活の中で出会った日本人はほとんど中国のことをよく知っていないので、リードアジアで知り合った日本人が非常に中国のことに詳しいと感じたのでとても嬉しかったです。グループディスカッションで意見交換をしたり、ワークショップと一緒に提案したりして、充実した2日間を過ごせました。



熊本 友里奈

桜美林大学リベラルアーツ学群 3年

インターンする際にリードアジアのことを知りました。当時は合宿形式で築かれた強い信頼関係のもとに活発な意見交換がされているのを見て自分も参加したいと思いました。今回参加が決まった時は本当に嬉しかったです。そして企業でのディスカッションでは意見がぶつかってしまい、全員が納得のいく答えを出すことの難しさを感じました。限られた時間で相手の意見を聞き、自分の意見を出し、まとめるという作業から、他の参加者の考えをより深く理解できました。



楊 旭卉

早稲田大学基幹理工学部 3年

初めて国際交流活動に参加してみましたが、想像以上に楽しかったです。日本人学生も中国人学生も、国籍にかかわらず、自分の意見やアイデアを出して、互いにディスカッションして、それぞれの視点から問題を解決しようとするのはとても有意義な経験だと思います。機会があれば、ぜひまた夏のプログラムにも参加したいと思っています。



辺士名 夏姫

琉球大学観光産業科学部 4年

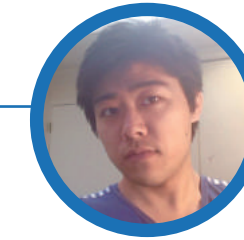
今回のこの研修に参加した目的は、日本・中国大陸及び台湾地区3地のこれからの関係性や交流の在り方を沖縄という視点から考えるということでした。この2日間を通して、改めて人と人との交流が平和構築には欠かせないものだと感じました。少しでも多くの人々が実際にお互いの国の人とふれあうことで、相手を知ることができ、偏見や差別がなくなります。「知る」ということが、平和への一歩であり、日中関係だけでなく、世界中で求められていることなのだと感じました。



陳 希蕊

一橋大学社会学部 1年

グループディスカッションの内容が難しく、フォローするのにとても大変でしたが、その経験はかえって日本語をより勉強しようとする原動力にもなりました。そして今回の企業訪問を通じて、日本の大企業に対するイメージも変わりました。日本企業はこれほど社会貢献に注力していると思わなかったです。もちろん、最も大事なのは、みんなと一緒に2日間を過ごせたことです。本当に有意義な時間でした。



濱田 正紹

早稲田大学商学部 2年

今回のプログラムに参加した最大の目的は、日中の経済的な側面に関して興味を持つ友人を作ることでした。そしてその目的は確実に果たすことが出来ました。というのも、プログラムの所要所でメンバーの入れ替えなどが組み込まれており、多くの人と交流することが出来たからです。最初は1泊2日という短期間で、参加者全員と交流できるかどうか不安でしたが、最後の懇親会は予想以上に楽しむことが出来ました。夏のプログラムもぜひ参加してみたいと思います。



水野 裕大

慶應義塾大学経済学部 3年

十数年香港に住んでいた私にとって、2014年の『雨傘革命』はショッキングな出来事でした。中国に対して負の印象を抱いていましたが「実際に中国人に会って話したい」という思いで参加してみました。日中交流に殆ど縁のなかった自分は、日中交流の裾野を広げることが目標であるリードアジアがまさに想定していたような人間でした。わずか2日間とはいえ、自分史上最高に濃い2日間でした。たった2日間で自分の既存概念を崩すこのプログラム、侮れません。

3-2、参加者の声（夏季プログラム）

吉田 翼

同志社大学グローバル
コミュニケーション学部4年



日中両国はグローバルな課題に共に取り組む責任を背負っており、それをリードしていくのが私たちの使命です。胸襟を開いて、互いに議論し、今後の日中そして世界に向き合った2日間は最高の宝物です。志高く、真剣に日中友好のために「考動」する仲間から学んだことを大切に、彼らとともに日中友好を長期的、安定的に発展させていきたいです。

平舘 みどり

白百合女子大学文学部4年



「リードアジア」という名前から感じられるように、非常に固いイメージがあり不安でした。しかしいざ参加してみると、初めて会う人でありながらも大変仲が良く、過ごしやすい環境の中で勉強になるものでした。今回は非常に社会事情や両国に対する考え方を触れる機会がありました。そんな中で、お互いが相手の意見を聞き、否定するのではなく理解する努力が求められました。一方で、自分が今まで持っていた知識に彩を与える、そんな素敵な時間になることができました。

任 偉濤

一橋大学商学部1年



2日間という短い時間でしたが、様々なことを体験することができ、極めて充実した楽しい時間を過ごしました。そして何よりも最初にお互いに知らなかった私達参加者は親しくなり、友達になりました。昔の私は同じ年頃の日本人の方の話し方や考え方に詳しくなく、交流するのを恐れていました。しかし今回のプログラムで日本人の方と会話を交わす機会がたくさんあったので、昔のような交流に伴う不安もすっかりなくなりました。

仲谷 航

東京外国語大学言語文化学部3年



私はどちらかと言えば中国語とは関係の薄いフィールドを専攻しているのですが、自分の現状に行き詰まりを感じ、新しいフィールドに出たいという思いから今回のプログラムに参加しました。今回のリードアジアでの交流を通して、2日間という短い間でしたが、周囲のメンバーや、スタッフの方から、さまざまな刺激を頂き、自分の原点について改めて気づきを与えて貰ったような気がします。この気づきを今後の自分に生かしていきたいと思っています。

耿 雨豪

一橋大学商学部4年



ビジネスはただの金儲けではない。グローバル化が進む今、企業はむしろ異文化コミュニケーションのフロンティアに立たされております。その中でも、日中のビジネス関係は量質ともに世界経済においても高い影響力を持っています。従って、日中の中での相互的文化交流は互いの企業成長に繋がる一方、優秀な企業もたらすイノベーションもまた、日中の相互理解を促すでしょう。リードアジアはまさにこのような理念のもとで、様々なイベントを企画してきました。これからも、ますます影響力のある組織になれるように心から祈っております。

齋藤 玲実

一橋大学商学部2年



充実した2日間でした。特に2日目の企業訪問の際に、日本人学生と中国人学生と一緒に1つのアイデアを生み出すという経験が印象に残っています。お互いのことや国について理解するには、2日間という期間は短かったように感じます。これを1つのきっかけとして、大学にいる中国人学生や地理的に近い中国という国について、知っていきたいと思っています。

孫 悦

一橋大学商学部2年



出身や学校の違う学生たちと一緒に料理を作ったり、企業を訪問したりして楽しかったです。このような、今までなかなか経験できなかった機会を通して、日本の大学生と日中関係について話し合い、お互いに理解を深めることができよかったです。これからもこのリードアジアの企画を他の友達にもぜひ勧めたい。



周 房津子 早稲田大学・先進理工学部1年

企業訪問を通して人間として成長できたと思います。グループディスカッションやプレゼンを何回も繰り返し、大勢の人の前でも堂々と自分の意見を述べられるようになったのは価値あることだと思います。参加者のみんながとてもやさしく、大好きになりました。1年生としてこのプログラムに参加することができてとても光栄です。



叶 志强 上智大学・法学部1年

想像以上のものが得られたと思います。そして企業訪問はすごくいい経験になりました。スーツ着て毎日仕事場に行くのはどれだけ大変なことなのかよく実感できました。それをきっかけに、毎日職場で働いてくれている親に感謝したくなりました。今後は大学でもっと頑張って将来社会に役立つ人材となり、親に恩返しできるようになりたいと思います。



郭 嘉璋 青山学院大学・文学部2年

日本のビジネスについて学び、様々な企業の雰囲気を感じました。そしてメンバーと寝食を共にして、日本人に対する理解を深めることができました。優しくて優秀でこんなに素敵な友達ができるとも嬉しいです。この活動を通して、社会に貢献できるグローバル人材の特徴を学びました。自分も語学力だけでなく、文化への深い理解や豊富な社会の知識も得るべきだと感じました。日中の良好な関係は、お互いに好きでなくても、理解し尊重し合うことだと思います。日本人学生に中国をもっと知ってもらい、中国人にも日本をもっと知ってもらいたいです。これからも日中交流活動にも貢献したいと思っています。



徐 梦婷 上智大学・文学部3年

企業訪問で様々な業界に関する話を聞くことができ、特に普段あまり接していない業界についても理解が深まり、非常に勉強になりました。また、中国本土の学生とも日本人の学生とも交流ができ、生活面の話だけではなく、たくさん深い話題について話せたのは、大満足でした。個人的に日本人学生より、本土の学生に接する機会がとても少ないので、今回のリードアジアプログラムを通じてたくさんの本土学生と話ができてとても良かったと思います。



顧 梓弘 慶應義塾大学・文学部3年

今回のプログラムは自分が思っていたより満足度が高いです。実行委員の皆さんがすごく真面目で丁寧に参加者のことを考えてそして対応しているところは本当に感じます。すごく勉強になりました。企業訪問では、様々な業界の企業を訪問することを通して、自分の視野を広げることができました。今まで感心のない業界にも興味を持つようになりました。最後に、何よりも実行委員の皆さんそして参加者の皆さんと本当の友達になることができるとも嬉しいです。またこのプログラムのために自分の力を捧げたいと思います。



李明鑫 北海道大学・公共政策大学院M1

リードアジアを「卒業」した次の1日、引き続き企業説明会に回りました。ただ1人ですごく寂しく、皆さんとのグループディスカッションを思い出したら、リードアジアの皆さんは本当に最高のメンバー、家族だと改めて感じました。必ず皆さんとの出合いを大切し、これからの原動力として、勉強も、就活も、恋愛も一生懸命頑張りたいと思います。最後に、皆さんはそれぞれの道で活躍できることを心から祈ります。9日間、大変お疲れ様でした。また会いましょう。



蘇 超 白鷗大学・経営学研究科M1

今まで全然体験したことのないことを体験し、予想以上の満足感はこの9日間ずっと漂っています。毎日新しいグループで新たな参加者と一緒に行動して、人とのコミュニケーションも知らない人との接触の中で、段々とうまく進んできました。そして、毎日異なる企業への訪問を通して、異なる企業はどのような経営戦略をとっているのか、海外進出はどのように進んでいるのかなどの具体的な企業に対する疑問も1つずつ知りつつあります。リードアジアは、勉強と友達、交流と融合などのようなキーワードで編まれている素敵なプログラムです。Why not join us?



早稲田大学・商学部1年 **金本 嘉裕**

憧れの大学に入ったものの、周りに流されて怠惰な生活を送っていた自分にとってこのリードアジアで出会った意識も能力も高いみなさんと過ごす事はとても良い刺激になりました。また、日中関係がくすぶっている中で企業訪問やレクを通じた日中交流で沢山の中国人の方と本音で将来の夢や自分の国の課題、歴史問題について語り合えたことは一生の財産です。この様な8泊9日間を過ごす中で自分にも北京大学に留学して中国語をマスターするという新しい目標も出来ました。この経験を生かしてあと3年半ある大学生活を有意義に過ごしたいです。



法政大学・法学部1年 **中塚 咲希**

このプログラムに参加する前は、不安で一杯でした。企業訪問も初めて、1年生で経験も少ない、ディスカッションもしたことない...自分から応募したのに当日は少し憂鬱な気持ちでした。でも実際に8泊9日間一緒に行動した今ではこのプログラムが終わって欲しくありません。中国から来た学生に沢山の事を教えてもらい、中国語をもっと頑張ろうと思いました。経験を重ね、自分が3年生4年生になった時に、リードアジアで出会った方々のようになりたいと強く思いました。日中交流×企業訪問、とても素晴らしいプログラムだと思います。日中交流センターの方、実行委員の皆様、企業の皆様、参加者のみんな、本当に感謝しています。



東京大学・教養学部1年 **大栗 治香**

私がこのプログラムに参加しようと思ったのは特別中国に関心があったからではなく、大学生の夏休みを無為に過ごしたくなかったからです。何か自分が変わるきっかけになれば良いな、という気持ちでした。今改めて思うと、参加したことで何かが大きく変わったわけではありませんが違う国・大学から来た学生と共に笑い、共に遊び、悩みを打ち明けたことは私の人生で大きな財産になったと思います。私の良き友人・先輩になってくれた方々、ありがとうございました。



一橋大学・経済学部1年 **栗田 寛樹**

本当に充実した9日間でした。積極性に満ちた仲間たちに沢山の刺激を受け、これから先どのように大学生活、そして社会生活を送って行くかとてもワクワクしています。企業訪問では何度もディスカッションをする内に自分も周りもどんどんコミュニケーション能力が向上していくことを感じました。文化交流では意識の高い中国人の方々と言語や考え方を教え合い、時には両国の問題になっている事柄についても議論して互いの理解に努めました。でも、私が中国語をもっと上達させればもっと深い相互理解ができると思いました。これからの生活を今回もらった刺激を活かしてもっと充実させていきたいです。



津田塾大学・学芸学部1年 **川節 さやか**

大学に入学してから4ヶ月間、淡々と過ぎていく大学生活に何か物足りなさを感じたのがこのプログラムに参加した1つの理由です。参加してみると、多くの経験を積んできた方々から日々学ぶことばかりで、自分の不甲斐なさを感じることも多々ありました。今回学んだこと、感じたことをたくさん吸収してそれらを実践し、1年後2年後もしくは3年後、リードアジアを通して出会った先輩方を超えられるような人になりたいです。心の底からこのプログラム参加してよかったと思います。



早稲田大学・文化構想学部2年 **山手 みさき**

リードアジアに参加して良かったです！私は言語に興味があって参加しました。文化交流に参加した経験がなかったので、最初は緊張していました。周りの学生のレベルが高かったので、未熟さを感じる事が度々ありましたが、それ以上の刺激を受けました。リードアジアに参加してみて、留学してみたいというぼんやりとした考えが、確信に変わりました。文化交流することで、中国に興味をわき、企業訪問することで言語力以外に必要なことがあったと分かりました。最終発表会のテーマからも、深く日中交流について考えられました。来年は留学します！もっと中国について知りたいです！



関西学院大学・国際学部1年 **玉村 萌々子**

私は中国と日本の企業を知る目的でこのプログラムに参加しましたが、想像以上のものを得られました！それは「国境、大学、年齢を超えたメンバーとの本物の強い絆です！」「ハード、だけど楽しい」この言葉を体感した9日間でした。関西には普段話すことがない関東の学生や、企業の方々、中国の学生と過ごし視野が大きく広がりました。ダイヤモンドは周りの石によって磨かれるというように、素晴らしい人達に出会い刺激されたおかげで自分も磨かれ新しい目標が見つかりました。最後のグループ発表で1人1人を木に例えたように、ここで築いた深い根と経験を生かして、自分もしっかりとした1本の木となり種をまき日中友好に貢献したいです！



創価大学・文学部2年 **中山 雄太朗**

私はリードアジアを通して、出会うことの素晴らしさに改めて気づくことができました。9日間のプログラム期間中で出会った参加者、実行委員の方々と寝食を共にして語り合った時間が何よりの思い出です。彼らと過ごす中で、今の自分自身に足りないもの、これから取り組むべきことを知ることができました。今後の自分の人生にとっても大きな影響を与えてくださった参加者の皆さん、実行委員の皆さん、講演をしてくださった方々、企業の皆様、日中学生交流連盟、国際交流基金の皆様に深く感謝しています。今後のより良い日中関係のために自分ができることに精一杯取り組んでいきます。



一橋大学・社会学部2年 **梅澤 美紀**

あまりに充実していてあっという間の9日間でした。企業訪問や文化交流を通じて、今までは考えもしなかった多くの価値観を知りました。普段の日本人との交流の中では気づかないことも多くあり、もっと日本のことも中国のことも知りたいと思いました。今後も様々な交流を通して多様性を楽しみたいと考えています。まずは中国語の勉強を再開するところから始めていきます！私にたくさん気づきをもらってくださった仲間とこれからも交流を続けていきたいです。



神奈川大学・外国語学部3年 **三浦 史華**

メディアを通しての中国と実際に触れ合う中国の違い、私たちが知らず知らずのうちに持っていた固定概念への気づき、がこのプログラムを通しての大きな修得です。その他にも、就職活動で自分の希望する進路にしっかりと進むために、何が足りないのかを見つけることができました。中国人学生と共同生活をするのはあまりない経験だったので、とてもいい経験になりました。中国人学生の日本語の流暢さには驚かされました、私も中国語がんばります！



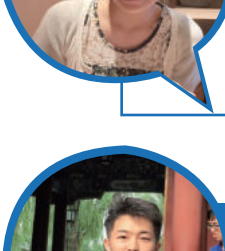
創価大学・文学部3年 **山口 悠希**

今回、このリードアジアに参加した中で大きく3つのことが心に残りました。まず1つ目はディスカッションなど、これまで自分が体験したことなかったレベルも質も高いものを学ばせて頂きました。2つ目は、日中学生がディスカッションや文化交流を通してよりもう一步踏み込んだ深い関係になれたことが良かったなあとと思います。そして、3つ目は実行委員さんも含めて、今年のこの最高の参加者のみんなと出会えたことです。大学も学年も、国境も越えて出会えたみんなとの絆や友情はこれからも大切にしていきたいです！本当にありがとうございました！



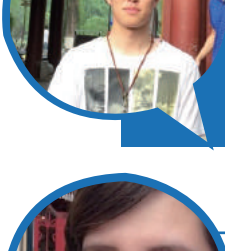
東京理科大学・理学部3年 **原田 有紀**

初めは様々な企業に効率よく訪問でき、かつ普段関わる機会のない中国人の学生もいるのが面白そうだった程度で、日中関係について参加した1週間ですべて真剣に考えるとは想像もしていませんでした。話し合いの中で互いのことを否定しないで受け入れる、という姿勢の大切さを学んだり、発表の際の話し方を学んだり、毎日が刺激的でした。日数が経つにつれ、生活・価値観・歴史のような踏み込んだ話をしていくため、同じようなことで悩んでいる人間なのだ、と日中の境目を越えて相手を想うことが多くなったように思います。ここでの経験はこれからも大切にしていきたいと思ひ、さらに自分を高めたいと思ひます。



同志社大学グローバルコミュニケーション学部3年 **山本 昂佑**

僕は、留学中に中国に対してある程度いいイメージを持っていたので、何人かが言っていたような中国に対する爆発的なイメージの転換は起きませんでした。それ故に最初のころは積極的にコミュニケーションをとる姿勢を忘れてしまっていた気がします。この点に関しては人とコミュニケーション取る上で1番大切な能動性を欠いていたと反省してます。後半はしっかり1人1人と深く交流出来たのでよかったです。



津田塾大学・学芸学部3年 **引本 彩華**

様々な学びをもたらした、充実した8泊9日間でした。中国人学生、日本人学生ともにユニークで優秀な人たちが集まっていたので、1つ1つの会話や議論がとても新鮮で、常に刺激に溢れていました。企業訪問では直接訪問することでしか感じることができない、社員の皆様の熱意や、会社内の雰囲気を感じることができ、自分の将来について考えるいい材料となりました。参加者同士で、日中という国レベルの問題について互いに理解しようと努める機会が設けられ、改めて人対人の直接の交流の大切さを感じました。たくさんのキラキラした瞬間をありがとうございました。



法政大学・経済学部3年 **郭 拓人**

「井の中の蛙大海を知らず」私の人生の中で、この諺を最も痛感することができた8泊9日でした。参加者の方々は皆、「自分自身」という誇りに満ちていて、自分が今まで満足していた世界はこんなにも狭かったのだと知りました。何より、ただいい経験をさせてもらうだけでなく、皆が「次に繋げよう」と前を向いているところに感銘を受けました。冒頭の諺には、実は続きがあります。それは「されど空の青さ(深さ)を知る」。日本人と中国人は、同じ空の青さを知る者同士です。空の深さに比べれば、国籍の違いなど、浅はかな差でしかないかと改めて感じました。

東京大学・教育学部3年

谷中 尚子



今回のプログラムでの一番の収穫は、多くの学生と知り合い、交流できたことです。リードアジアのコンセプトとして、中国と日本の学生の出会い・交流を通して新たな発見をする、ということが挙げられるかと思いますが、中国に1年以上も滞在し、既に中国に傾倒している私には、この点について大きな進展は無かったかもしれませんが、全体を通していろんな方々と交流できたので、とても良い経験ができたと思います。

岩手県立大学・ソフトウェア情報学部3年

田村 省吾



今回リードアジアに参加させていただき多くのことが見つかりました。自分の未熟さ、自分の視野の狭さや自分が自信の持てる部分などです。これからの自分の進路選択はもちろん、掛け替えのない仲間と会えたこと、文化的背景の異なる人との交流など本当に貴重な体験をさせていただいたと思います。私は国際交流サークルの代表を務めており、留学生と接する機会が多くあります。今回リードアジアでは仲間と一緒にグループディスカッションや交流を通じて壁をなくし本当に良い仲間になれたと思います。このリードアジアのプログラムで得た経験をこれからも忘れずに、自分の中で活かしていきたいです。ありがとうございました。

法政大学・法学部3年

牧 一浩



8泊9日の日程を通して、様々なことを学び、いろいろな刺激を受けることができたと思います。現在、中国と日本は関係が良いとは言えないけれども、リードアジアのような、小さな交流・草の根運動が将来の日中・中日の友好に結び付くことになれば良いなと思いました。メディアの映す中国と日本は違うということを再確認し、切り取られた情報だけで判断してはいけないと痛感しました。このプログラムを通して出会ったかけがえのない友達と永く付き合えたら良いなと感じました。

筑波大学人文・文化学群人文学類3年

平田 朝徳



日中交流をしながら企業訪問をすることで、アイデアや考え方において何か新たに得るものがあるのではないかということを期待してプログラムに臨みましたが、実際にこれまでの日々を経て、それ以上のものを受け止めることができました。プログラムを終えた今は、メディアなどにより形成されていた偏見やステレオタイプはもはや感じられず、中国人学生にとっても素晴らしい印象を抱いています。9日間という短い期間でしたが、本当に参加してよかったと思っています。このプログラムを通じて得たことを今後の自分の生活や考え方に反映させていきたいと考えています。

白鷺大学・経営学部4年

北向 溪太



私は初め中国人に対して、表面上は仲が良くても何かあればすぐキレるというような偏見を持っていました。しかし実際交流してみるとそんなことは全くなく、皆常に優しくとても話しやすいと感じました。今回の全活動を通して、中国と日本、などの国による人間性の違いは少なく、同じ美徳を持った人間なんだということが身を持って実感できました。企業訪問では、普段は関わることのできない企業から沢山の新たな知識とお土産をいただきました。この経験から生まれた新たなモチベーションを持続させ、目標達成に向け努力していこうと思います。

早稲田大学・政治経済学部4年

石井 莉咲



プログラム序盤は言葉が通じないことから、日中の学生の間には少し壁がありました。それでも企業訪問や料理大会、お互いの恋愛話などといった事柄から共通点を見つけ、少しずつ仲が深まっていきました。本土学生とのお別れのシーンでは涙を流す学生も少なく、残りの半年のうちに彼らを訪問しつつ中国を周ろうという決意に至りました。やはりこのような草の根の活動が、長期的にはメディアに流されない、強い個を創出し、良好な日中関係の基盤を築くのではないかと改めて人との「輪」や「繋がり」を意識させられた9日間でした。

一橋大学・商学部4年

筒井 玲美香



日中交流のイベントに参加するのは初めてでしたが、予想以上に充実しているプログラムでした。中国の人たちと企業訪問や文化交流を通して、普通の会話だけでなく歴史問題など深い話もすることができました。参加者は本当に優秀な方ばかりで、交流を通してたくさんの刺激を受けました。非常に充実した8泊9日間でした！

浅野 堅二郎

獨協大学・国際教養学部4年



楽しいときも、辛いときも、一緒に乗り越えてきた私達は、日本や中国の括りでは到底表せないような、1つの大きな家族になることができました。そしてそこには、お互いが思いやる心で繋がっている、美しい日中関係の形が形成されていました。私達は、国境を越えて、心と心が繋がる、そう確信することが出来たプログラムでした。

田 子健

北京外国語大学・日本語学部2年



最初は日系企業に触れるためにこのプログラムに応募したが、最後には最も貴重な収穫は素敵な仲間ができることになった。9名の実行委員と43名の参加者はいろいろな困難を超えて企業訪問と最終発表のスケジュールをやり遂げた。そのおかげで最後の観光はより楽しかった。加えて、電車移動、ディスカッション、部屋分けなどみんな毎日いくつかのグループに分かれて、できるだけ多くの参加者と交流する機会もあった。これからもリードアジアのファミリーみんなとの繋がりを大切に、今回の経験を生かしていきたい。

魏 萱

北京外国語大学・日本語学部2年



最初はただ日本に行ってみようという軽い気持ちで応募したのですが、この1週間の体験は想像を超えるほど素晴らしく、大切な思い出になりました。そして、同世代の日本大学生とのディスカッションもすごく勉強になりました。こういった本格的なアイデアのぶつかり自体も非常にいい経験だったし、生の日本の若者との交流を通じて、両国の相互理解などにもつながると思います。最後に、様々なものを見たい、体験したい、交流したいという思いを実現して下さった実行委員の皆さんにありがとうございました。

陳 賢坤

国際関係学院・日本語学部2年



私にとってこのプログラムが初めての日本、初めての東京になりました。大学に入って日本語を勉強してからずっと行きたいと思っていましたが、なかなか行く機会がなく、なんとか大学4年間のうちに...という思いがあったのと、少しでも現地で日本語を使いたいと思ったため、このプログラムに参加しました。最初は企業訪問で、みんなグループに分けてディスカッションしたり、発表したりしている勉強になりました！そして、東京観光でうちのグループはスカイツリー 浅草に行きました！最後の晩餐会もとても楽しく盛り上がりました！今回のリードアジアに参加できて、本当に楽しかったです！ありがとうございました！

曹 堃

天津外国語大学・日本語学部3年



リードアジアに参加できて本当に良かったと思います。企業訪問と文化交流によって、視野が広がったり、様々な人とコミュニケーションをとれたりして、色々勉強になりました。8泊9日の時間は短かったのですが、たくさんの人と友達になりました。今残ったのは大切な仲間や貴重な思い出だと思います。僕はこのような企業訪問を中心にやってきたプロジェクトに参加したのは初めてでした。多岐の分野にある日系企業の経営理念や市場分析を聞いて、自分の考えがまるで脱皮のように進化してきたと思います。実行委員の皆さま、本当にありがとうございました！

王 宇威

Trinity College・工学部3年



リードアジアで出会った優秀な皆さんや訪問した世界で活躍している日本企業からたくさんの刺激をもらいました。ずっと日本語を勉強してきましたが、学んだ日本語を実際に使って日本人学生とコミュニケーションしたことはあまりなかったです。今回一緒にディスカッションしたり、自分の歴史観やお互いの国に対して気になることを真剣に語り合ったりすることは本当に貴重な経験になりました。そして、自分の無力さや将来頑張らなきゃいけないこともたくさん見えてきました。最後、みんなは家族みたいに仲良くなったことは何よりです。みんなでできたこの絆をこれからも大切にしていきたいと思っています。

張 卓琳

黒龍江大学・日本語学科2年



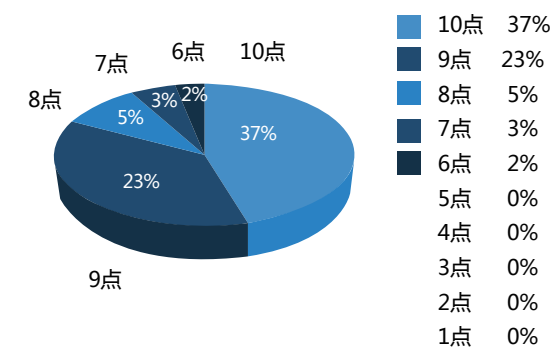
企業訪問で日本語がよく使われるので、日本に行く前は不安だった。もっと日本語が頑張ればよかったと後悔した。しかし日本に行ったら、参加学生と実行委員のみんなの優しさが想像以上だった。私の下手な日本語に気にしないで話をよく聞いてくれた。一番印象的なのは、最終発表で優勝したことだった。自分も発表の中で、意見をきちんと話せた。私たちのグループは良好な日中関係を実現する過程が種から森になると想像した。我々若者は良好な日中関係の種をまいて、木を植えるように、力を生かして、みんなで一緒に頑張ろう！

3-3、参加者アンケート結果

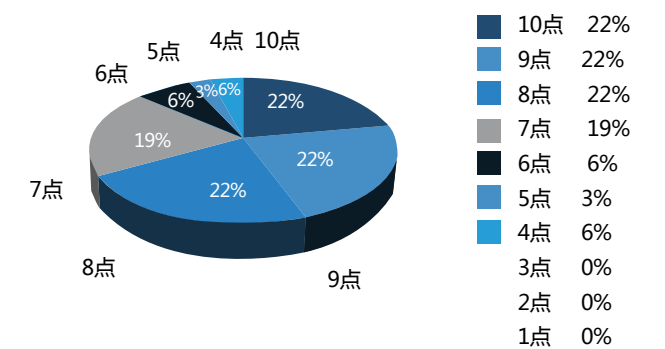
1、応募倍率

春季プログラム：2.7倍 (応募者数51名)
 夏季プログラム：5.1倍 (応募者数188名)
 ※夏季は公募枠37名で算出

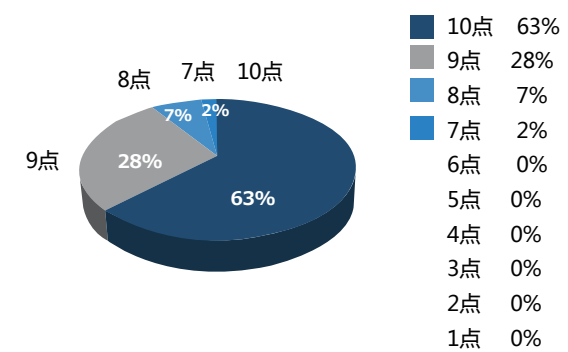
2、企業訪問満足度 (平均8.8/10)



3、文化交流プログラム満足度 (平均8.3/10)

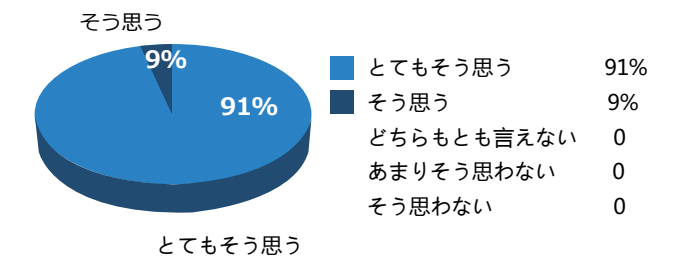


4、夏季プログラム全体満足度 (平均9.4/10)



5、参加を終えて

今後も日中交流活動に何らかの形で関わりたいと思いますか？



6、コメント抜粋

中国に対してあまり良い印象を持っていなかったが、実際の中国人学生との交流をもって考えを改めることができた。
 大手だけではなく、ホトロンのような日本の中小企業にも訪問できて、良かったと思う。
 中国本土の学生とも日本人の学生とも交流ができて、しかも生活面の話だけではなく、たくさん深い話題に話し合いができて、大満足でした。
 グループディスカッションの過程において、日本語力が向上できただけでなく、視野も広がりました。

延辺大学・日本語学科3年

崔 美英



リードアジアの活動に参加する前には、いろんな心配がありましたが、参加してからは毎日すごく楽しく過ごすことができました。また企業訪問やディスカッション、日本人学生との交流を通じて色々学んだことができました。リードアジアに参加してよかったと思います。

中山大學・日本語学科3年

黄 潤



短い間だったけど、本当に家族になったような感じがした。せっかく仲良くなって、このまま別れてしまうのが寂しかった。そして一番有意義なことは企業訪問だった。グループディスカッションのテーマ、グローバル化社会やビジネスモデルや一带一路などは面白くて興味深く、勉強になった。真鍋様と寺村様の講演も勉強になった。日本人の学生さんたちも中国語が結構上手で、驚きました。今後はもっと努力して中日友好の架け橋になるために精一杯頑張りたいと思う。

電子科技大学・日本語学科3年

楊 坤



私は成都ふれあいの場の代表として今回のリードアジアに参加しました。こんな素晴らしいチャンスに恵まれているいる勉強しました。参加者のみなさんはいい人ですが、実行委員たちのみなさんも非常に優しい人です。みなさんと一緒にたくさんのお忘れたい思い出を作りました。そして、みなさんといい友達になりました。自分のグループは最後のプレゼングループに選ばれて、本当に嬉しかったです。

吉林大学・日本語学科3年

陳 曉蕾



今度のプログラムに参加することを通して、中国人と日本人はお互いに理解できるようになりました。日本に来るのは初めてで、不安でいっぱいでしたが、日本人の学生は優しくしてくれて、不安は全部解消されました。ディスカッションをした時、日本の学生と様々な意見交換を行い、考えのぶつかり合いを楽しんでいました。それに、自分の日本語の能力に落胆して、もっと真面目に勉強すべきだと痛感しました。今後の中日関係を変えるために、中日両国間の架け橋となるよう努めていきたいと思います。

中国伝媒大学・日本語学部M1

郭 昀



これまで日本へ1度しか行ったことのない私にとって、今回の貴重な機会をいただくことができ、光栄に思うと共に、夢がやっと現実になったことを実感しています。どのような国でも、自分の目で確認し、自分の心で感じ、その風合いを感じ取り記憶していかなければ理解は深まらないと思います。ですから、今回のリードアジアのプログラムへの参加は私にとって人生の一大イベントであり、重要な転換点でもあります。これからは自分の日本語能力を磨き、できればリードアジアの実行委員たちに返還したいです。

重慶師範大学・日本語学部2年

王 婧之



このプログラムに参加する前、私はとても緊張していました。日本に行くのは今回が初めてで、このプログラムがすごく難しいのも先輩から聞きました。でも、参加した後の私はそれほど心配する必要はないと思います。実行委員の皆さんがとても優しく、参加者のみんなも親切でした。毎日本当に疲れたけど、心が充実していて、離れた時は本当に寂しいと感じました。また日本へ行きたいです！

北京外国語大学・日本語学部3年

王 羽萌



少し疲れていましたが、とても良かったです。リードアジアというプログラムで、多くの友達ができ、本当にありがとうございました。この9日間は企業などの研修で視野が広がり、とても勉強になりました。実行委員のみなさんも大変真面目で、親切な方々です。本当にありがとうございました。もし機会がありましたら、ぜひ実行委員に応募させてください。(笑)

4、協力企業一覧 (訪問日程順)

Orchestrating a brighter world
NEC

日本電気株式会社 (NEC)

NECは、ネットワーク技術とコンピューティング技術をあわせ持つ類のないインテグレーターとしてリーダーシップを発揮し、卓越した技術とさまざまな知見やアイデアを融合することで、世界の国々や地域の人々と協奏しながら、明るく希望に満ちた暮らしと社会を実現し、未来につなげていきます。



株式会社文明堂東京

株式会社文明堂東京およびそのグループ会社は、人々に笑顔をお届けする歴史ある菓子舗として：「社会への貢献」、「顧客からの信頼」、「最高の品質、最高のサービス」、「たゆまぬ革新と前進」、「人々の幸福の追求」の5つの経営理念、および「最良の原材料を使い、最高の技術をもって、最高の品質の商品をつくり、販売員の真心のサービスを添えてお客様に提供し、良心的価格を守り、お客様を1回限りのお客様にしない」とする善意の積重ねの行動指針に則り、お客様や従業員など関わるすべての方の幸福を追求し続けます。

NIKKEI

株式会社日本経済新聞社

激動するグローバル経済における優れたナビゲーターでありたい。日本経済新聞社は今、こう考えています。目指すのは新聞発行を軸にした複合メディア企業です。

YOKOGAWA

横河電機株式会社

YOKOGAWAは、1915年の創業以来、自ら変革しながら成長を遂げてきました。今後も「社会とお客様から真に必要なとされる企業」であり続けるために、時代を先取りした技術によって付加価値の高い製品やソリューションサービスをお客様に提供し、産業界の発展はもとより豊かな人間社会の実現に貢献してまいります。



藤田観光株式会社

私たちは創業より、事業を通じ社会に貢献し続ける企業を目指してまいりました。これからも常にお客様のニーズを捉え、「いつも、ありがとうのいちばん近くに」いられるよう、日々愚直に挑戦し続けることが極めて重要だと考えております。2020年に予定されている東京オリンピック・パラリンピック、そして観光立国に向けた各政策を機会として、観光立国のリーディングカンパニーを目指して、チーム藤田一丸となって新たなステージに向かって挑戦してまいります。

株式会社JTBグローバル マーケティング&トラベル

私たちは、世界の人々に日本の魅力を創出し、多様な価値と感動を提供し続けることにより、グローバルな交流の促進と環境にやさしい平和な社会の実現を目指します。

株式会社エヌ・エ ヌ・エー (共同通信グループ)



NNAは、1989年に香港で創業、アジア13カ国・地域にいる日本人編集記者が日系企業の視点で取材・編集。厳選した現地のビジネス・経済情報を日本を含むアジア18拠点で主に法人のお客様向けに提供しています。

株式会社ジーユー (ファーストリテイリンググループ)



ファーストリテイリンググループの一員である株式会社ジーユーは「ファッションを、もっと自由に」というコンセプト通り、最旬のトレンドを揃えた商品展開で高い成長を達成しています。日本的な「カワイイ」を大切にすることで、欧米のファストファッションとの差別化も図っています。

株式会社 ホトロン



ホトロングループは、「感謝、礼節、反省」を社訓に掲げ、「Speed&Strategy」を合言葉に健全な企業活動を通じて社会貢献することを経営理念とし、積極的な事業展開をしております。またエレクトロニクス技術を通じて豊かでより安心な暮らしの実現をめざし、地球環境・世界及び地域社会との調和に配慮し、効率と安らぎを共創する企業として社会責任を果たします。

株式会社資生堂 SHISEIDO

資生堂は、1872年に日本初の洋風調剤薬局として東京・銀座で創業しました。「美しい生活文化の創造」というミッションのもと、美と健康を通じて人々が幸せになるサステナブルな社会の実現を目指し、高機能・高品質・高い安全性を持った化粧品や最先端の美容法などを創出し続けています。

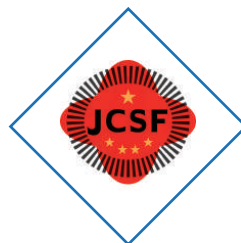
丸紅 株式会社 Marubeni

総合商社である丸紅グループは、社は「正・新・和」の精神に則った企業活動を通じ、様々な分野・市場において世界トッププレーヤーとの競争に勝ち抜き、真のグローバル企業を目指します。同時に、地域経済・社会の発展、社会的課題の解決や地球環境の保全に貢献する企業グループを目指します。

株式会社三菱東京UFJ 銀行

「世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ」を、「中長期的にめざす姿」として掲げております。いかなる時でも最も信頼される存在として、期待を超えるクオリティで応え続け、日本はもとよりアジア、そして世界に選ばれる存在となることをめざし、役職員1人ひとりがお客さまと真摯に向き合い、お客さまと社会を支える揺るぎない存在となるよう、前進してまいりたいと考えております。

5、主催団体紹介



日中学生交流連盟 (Japan China Student Frontier Group)

日中学生交流連盟 (JCSFG) は、2012年10月に設立されました。2012年は日本と中国にとって国交正常化40周年という節目の年を迎えた一方、尖閣諸島問題を発端にかつてないほど関係が悪化した年でもあり、現在加盟している団体の中には準備していた活動の内容を変更せざるを得ない団体もありました。そんななか、日本と中国の学生のパイプをより太いものにすべく、日中交流に携わる5つの団体がJCSFGを立ち上げました。

2016年10月現在、「AFPLA東京大学支部」「OVAL JAPAN」「京英会」「京論壇」「心連心OB・OG会」「日中学生会議」「日中学生交流団体freebird」「日本青少年友の会」「早稲田大学中国語学習会」(50音順)の9団体が加盟しています。各団体の活動は、ディベートやホームステイ、語学交流やビジネスコンテストなど多岐にわたります(詳細は「加盟団体紹介」ページをご覧ください)。JCSFGは、こうした活動をより活性化させていくためのプラットフォームとしての機能を担っています。今後も加盟団体同士で知恵を出し合い、力を合わせ、日中の学生交流の活性化に取り組んでいきます。

顧問/アドバイザー

◆顧問(敬称略)

谷口誠 (元国連大使・桜美林大学北東アジア総合研究所特別顧問)
川西重忠 (桜美林大学教授・北東アジア総合研究所所長)
楊光俊 (桜美林大学孔子学院院長)
瀬口清之 (キャノングローバル戦略研究所研究主幹)

◆アドバイザー

丁寧 (株式会社ビリビリ代表)
森谷幸平 (株式会社WEIC取締役)
福住俊男 (グローバルマネジメント研究所代表取締役社長)

独立行政法人国際交流基金 日中交流センター (Japan Foundation-China Center)

独立行政法人国際交流基金は日本の国際文化交流事業を総合的に実施する専門機関です。1972年に外務省所管の特殊法人として設立され、2003年10月に独立行政法人となりました。現在、本部と京都支部、2つの付属機関(日本語国際センター、関西国際センター)、及び海外23か国に開設された24の海外拠点を中心に、外部と連携しつつ、文化芸術交流、海外における日本語教育、日本研究・知的交流を3つの柱として活動しています。

日中交流センターは、日中間の青少年交流を促進するために、2006年4月に国際交流基金に設立されました。日本と中国の将来を担う若者たちが未来を共に創るため、改めてこの絆を大切に、さらに大きな橋をかけたい…この想いの下、主に3つの事業一次世代を担う中国の高校生を約1年間日本へ招へいする事業、日中の交流の担い手間のネットワークをつくり広げていく事業、中国の地方都市を中心に日本文化を伝えるとともに交流を行う「ふれあいの場」の設置・運営支援を行う事業一を推進しています。

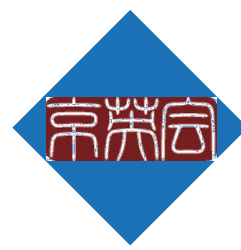
加盟団体紹介

◆ AFPLA

AFPLA (Asian Future Political Leaders Association) は、政治学に関心のある東アジアの学生が一同に会する国際会議を1年に1度主催しています。東京大学、北京大学、ソウル大学校、復旦大学、台湾国立大学の学生が、一緒に学び考え、濃い議論を経て共同発表を行うことで、学問的な理解を深め、生涯の友を得ることを目指しています。2016年は台湾で開催し、教育・権利・安全保障の各テーマについて議論しました。

◆ OVAL JAPAN

OVAL (Our Vision for Asian Leadership) は、「東アジア発のグローバルリーダーの輩出」をミッションに日中韓の3か国による、英語を用いた国際ビジネスコンテストを運営しています。実際に、日本・中国韓国の学生が1人ずつ、3人1組となって計30チームでビジネスプランを競い合います。3か国それぞれに支部を持ち、毎年日中韓いずれかの国でコンテストを行うのが特徴で、2016年夏には北京で開催しました。



◆ 京英会

京英会は、「日中の草の根交流を学生間から地域・社会全体に広げていく」ことを目的に、日中学生間の交流活動を企画・運営しています。毎年夏には、日中の学生がともに、東京・鯖江(福井県)・北京に滞在し、ディスカッション・街頭インタビュー・地方見学・日中文化体験・ホームステイなどを行います。2016年は「教育」をテーマとし、お互いの国籍を超えた相互理解を目指し、日本語・中国語で議論を行いました。



◆ 京論壇

京論壇は、東京大学と北京大学による日中学生討論団体であり、両大学の学生が、互いの国に1週間ずつ滞在し、日中間に横たわる様々な問題について英語で本音をぶつけ合い徹底的に議論します。2016年度は「リーダーシップ」「社会的正義」「人口と発展」の3つをテーマとしました。また、その成果は、報告会やシンポジウムの開催、出版活動、学校訪問などを通じて、積極的に社会に向けて発信しています。



◆ 早稲田大学中国語学習会

早稲田大学中国語学習会は、通称「チャイ研」と呼ばれる1972年から続く元祖中国語学習サークルです。初心者からネイティブまで参加し、まったり中国語を勉強したり、留学生と交流したりしています。2016年2月には、サークル史上初となる海外合宿を、北京にて開催しました。合宿では、「日中友好のために学生が出来ること」「第二外国語を学ぶ意味」というテーマのもと、ディスカッションをしました。



◆ 心連心OB・OG会

「心連心」は、未来志向の日中関係を築く礎として、より深い青少年交流を実現するため、日中両政府間の合意に基づく初めての長期招へい事業として2006年度より開始され、国際交流基金が主催しています。招へい生たちは、9月初旬から翌年7月下旬まで、日本各地に分かれ、ホームステイ先や学生寮に滞在しながら、授業・部活・学校行事など現地の高校生たちと同様の生活を送ります。「心と心をつなぐ」をモットーに、「心連心」というプログラム名称を用いています。



◆ 日中学生会議

日中学生会議は、毎年8月の2週間、共同生活や様々な討論・交流を通じて日中両国の学生の相互理解を深めています。日本と中国での隔年開催であり、中国開催となった2016年は、北京・上海・広州の3都市を訪れました。また、30年以上の歴史を誇り、数多くのOBOGを輩出していることも特徴です。OBOGの結束力、専門家との繋がり、社会への発信力を強みとし、日中両国の学生による主体的な活動を実現しています。



◆ 日本青少年中国語友の会

日本青少年中国語友の会は、桜美林大学孔子学院の附属団体です。中国語を学ぶ青少年(15歳から35歳)が主体となり、桜美林大学孔子学院で開催されるイベントなどに協力しつつ、日中交流・日中友好に貢献しています。

告知協賛



◆ ヒトツマミ

ヒトツマミは、一橋大学広告研究会HASCによる一橋生のための総合情報メディアです。「国立発!宇宙ぶっとびメディア」をコンセプトに、一橋生間の共通の話題になることを目指します。



曾 毅春 実行委員長

リードアジアに参加したきっかけは、私自身の中学時代の経験でした。私は中学校時代までずっと反日でしたが、そのような私の日本に対する先入観を変えてくれたのは日本へ留学に来て、日本人と実際に触れ合うことでした。私はその経験から、日中両国の国民がそれぞれに対して不信感を抱いている現状の中で、まず交流させることの重要性を学びました。そして「日中の学生に本当の日本と中国を知ってもらおう」という初心で私はリードアジアに入り、実行委員長を務めさせていただきました。プログラムの運営は簡単ではありませんでしたが、幸い実行委員会の仲間達及び関係者の方々のご協力をたくさん頂けたため、今年のプログラムを無事に終えることができました。本当に皆さまに感謝致します。



中塚 友梨 副実行委員長

昨年の夏リードアジアに参加した際の興奮と感動から、今回は実行委員長を務めました。初めてのことで戸惑うことも多かったですが、信頼できる仲間と助け合いながらここまでやってきました。特に今年は実行委員がほとんど入れ替わったため、何度も原点に立ち戻りながら慎重に議論を重ね、より良い企画を目指して参りました。プログラム中は積極的な参加者学生にも助けられ、皆で作上げた特別な9日間になったと実感しています。来年リードアジアは5周年という節目を迎えますが、日中交流に接点のない学生を慮ってしまう「魅力」を益々高めていって欲しいです。この輪が何倍にも大きく広がるように、いつまでも応援します！



水野 裕大 渉外担当

このプログラムは、国際交流基金をはじめ、企業の方々や研修・講演、広報にご協力くださった本当に多くの方々のご尽力から成り立っていると、終わってしみじみと感じています。学生の想いに、応えようとしてくださる企業の方々に、渉外を通じて出会うことで胸が熱くなりました。「自分も社会人になった時、何ができるか。」について、このリードアジアプログラムが考える契機になりました。個人としても、団体としても至らない点ばかりでしたが、皆様のご尽力もあって、来年は何とかリードアジアは節目となる5周年を迎えます。プログラムにご協力くださった方々への感謝の気持ちを忘れず、より日中交流を深化させるプログラムになるよう、一層の努力をして参ります。



任 嘉雯 広報担当（中国側）

2015年の参加者として参加したよりも、リードアジアの目標や役割を知りました。参加者への知らせを的確にするのはもちろん、時間や会場など細かい部分も参加者や企業の立場から考えて進められました。事前の各企業さんとの相談も勉強になって、進路選択の参考になりました。そして最も大事なことは、日中両国の優秀な大学生と経済、文化及び歴史までも議論して、深く充実した交流を行ったことです。一衣帯水の相手国の方々はお互いに意見を交換し、グループワークをし、一緒に発表し、相手国の理解を深めました。実行委員として至らない部分もありましたが、これこそ自分を改善する良いチャンスです。これからも少しでも日中交流に自分の力を捧げたいです。



李 雅琴 会計・参加者対応担当（中国側）

たまたまの機会でリードアジア2015に応募し、たまたま受かっただけで参加して、たまたま声をかけられてリードアジア2016の運営までやらせてもらいました。一連の偶然が重なって今ここにいます。参加者の時はプログラムについていなくても必死で実行委員が裏でどれくらい仕事してきたのかを想像しようとしませんでした。実際運営側に戻ると目線ががらっと変わりました。2015を振り返った時に、「参加者の自分があれをしていた時期に実行委員はこんなことしてんだ」「あのときはもっと〇〇しとけば良かったんだ」と色々な事が見えてきました。参加者としても実行委員としてもリードアジアに関わることができ、大変貴重な経験をいただきました。できれば今後もこの経験を生かして、微力ながら日中交流に貢献していければと思います。



秋野 雅彦 参加者対応担当（日本側）

6月からリードアジア実行委員として途中から参加し、無事8月末までのプログラムを完遂できたことにひとまず安堵しています。国際交流のプログラムに自身が携わるのは初めての経験でしたが、プログラムの準備から閉幕までは終始忙しくも大変充実したものでした。実施期間中の参加者の様子から、自身も沢山勇気付けられ、気合を入れ直したことが何度もありました。たくさんの優秀な参加者と出会い、学んだことは一生の財産になると思います。国の出身が違っていてもここまで率直にかつ真剣に語り合える関係を築ける、そのようなプログラムに携われたことを誇りに思うと同時に、今後もますます国際交流に携わっていきたくです。



齋藤 玲実 広報担当（日本側）

私は、日中学生交流連盟 事務局員という立場を兼任する唯一の実行委員として、夏プログラムの運営に携わりました。8泊9日に及ぶプログラムの企画・運営に打ち込んだ半年間は正直苦勞と反省の連続でしたが、そんな日々を経て、人として一回り成長できた気がします。同時に、事務局員として、日中交流をどうやったら「広げ」「深め」ていけるのか考えるきっかけを沢山与えてくれた、かけがえのない時間でした。こんな素敵な経験くれた「リードアジア」、そして色々突っ走ってしまった私を受け入れてくれた実行委員の皆さんに感謝するとともに、これからも出来る範囲で、日中交流に携わっていきたくと思います。



任 伝旭 当日スタッフ

一昨年は参加者として、昨年は実行委員として、今年は当日スタッフとしてリードアジアに携わらせていただきました。この3年間で感じたのは交流のパワーです。交流から生まれ無限の可能性が次々繋がると当事者の立場から強く学ばせていただきました。そのために、リードアジアのようなプラットフォームが今後の更に発展することを心から祈っております。引き続き、自分自身も日中の輪を広げられそうな活動に積極的に携われればと思います。最後に、これまでご協力いただいた皆様、参加者の皆さん、実行委員会の仲間にお礼を申し上げます。



ターン・有加里・ジェシカ 当日スタッフ

リードアジアで中国人学生と共同生活しながら、互いの国の流行から政治・経済問題に至るまで様々な内容について会話することで、私の持っていた中国へのステレオタイプはすっかり取り除かれました。この経験を他の学生にもしてほしい—そういう思いから今年は当日スタッフを務めさせていただきました。運営側の視点から参加者を見ていて特に印象的だったのが、最初は日本人学生と中国人学生との間に言葉や文化の違いによる壁が明らかにあったのに、9日間を通して徐々にそれがなくなっていったことです。何か大きな出来事によって壁が急になくなったわけではなく、毎日、少しずつ、分からない程度の変化があって、気付いたらすっかり日中が溶け合っていたという感じです。このような日中交流の輪がさらに広がったらいいと心の底から思っています。

7、ご協力のお願い

リードアジア2017

協力形態

- ① 学生の受け入れ（企業訪問・ご講演）
- ② 協賛金物品の提供
- ③ プログラムの参加学生を募集する際の広報

日中学生交流連盟では、第5回『リードアジア』プログラム（2017年実施予定）にご協力いただける企業を募集しております。8月に合宿型プログラムの開催を予定しており、1日もしくは半日で企業訪問を計画中です。ご検討いただける企業様は下記連絡先までご連絡ください。ご相談にお伺いさせていただきます。

ご協賛のお願い

日中学生交流連盟及び、連盟加盟団体では協賛金をお受けしております。

協賛形態

日中学生交流連盟、リードアジアプログラム、もしくはご指定の加盟団体に協力する。
→いただいた協賛金の用途などはご指定頂くことが可能です。

連盟でお受けした協賛金は、上記いずれの場合にも連盟が責任を持って管理し、用途をご報告させていただきます。日中学生交流連盟加盟団体一同、日中関係の発展のために励んでまいりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

協賛特典

1. 年次報告書の送付
 2. 連盟、及び該当する加盟団体の各媒体にて協力形態を明記いたします。
 3. 連盟、及び該当する加盟団体の各媒体にて広告を掲載いただけます。
- ※※詳しくは日中学生交流連盟までお問い合わせください。



日中学生交流連盟

Japan China Student Frontier Group

E-mail : jcsf.frontier@gmail.com
readasia2017@gmail.com

Facebook : <https://www.facebook.com/jcsf.frontier>

国際交流基金日中交流センター

Japan Foundation China Center

Tel : 03-5369-6074

HP : <http://www.chinacenter.jp/>

